



北海道 道東縦断 1988

BS 藤沢8団 SS シニア隊



釧路-釧路川-美幌峠-網走-サロマ湖・の間を徒歩・自転車・カメラで踏破。

巻頭言

RS 古沢可憲

今年も7人の新人を迎え、我が8団シニアも新シーズンに向け遂に第一歩を踏み出した。新たなシニアリングの道を歩み始めた6人は、これが本格的な移動キャンプとなるだろう。試行錯誤してシニアリングを初開拓する積極性に皆戸惑うかもしれない。しかし、その果敢なアタック精神こそシニアの面構えを形づくる重要なファクターなのだ。年々パワフルには、まさしく我団のシニアも根底から支えるのは、リーダーも上級スカウトもない。新たな活力も与えてくれる若連なのだ。



夏の北海道縦断プロジェクト

概要

- 〈テーマ〉 今夏、ワンギマビニまでやろうか。
- 〈目的〉 長期間の移動キャンプにおいて、1年生のシニアリングの醍醐味を伝えるとともに、上級スカウトも集めて、技術と知識を修得する。また自転車による移動と軽装備によって北海道の自然を存分に味わう。
- 〈期間〉 1963年8月14日～同21日。
- 〈場所〉 札幌駅集合。東京へ出てフェリーで釧路へ。釧路からオホーツク海側JR浜中駅に至る行程200kmの道を自転車でも走破。後、JRで釧路へ来てフェリーで帰路につく。
- 〈装備〉
 - ・自転車(各1台) ・カヌー ・ドムテント(4) ・ピークフック(6)
 - ・炊具セット(6) ・トランシーバー ・ラジオ ・救急バッグ
 - ・自転車修理セット・ボフイットガソリン 着脱フック等
 以上の共同装備の他に、個人装備としては、防雨着、替の服と靴、雨具、ヘッドランプ、火のつけ水筒を持っていくことに注意する。
 又、自転車にうつため、荷物は極力軽くし、ティンパックに収まるぐらいにした。 (カヌーはトラックに積む)
- 〈施設・資材〉
 - ・各チェックポイントのリーダーが移動する手段としてトラックを一台用意しておく。又、屈斜路湖を使用するカヌーは重い重装備はこれに積み込む、~~道~~北海道まで自転車も運ぶ。
 - ・清潔感を保ち、長期間の移動キャンプを常に健康に過ごすため宿泊地には必ず温泉があるところとする。
- 〈費用〉
 - ・交通費 約25000円 ・食費 8000円(184円)
 - ・ボフイットガソリン、医薬品、ガソリン(トラック) etc
 - で1人40000円未満にはるようにした。



網走・サロマ湖畔の原野。野営地向こうの山は遥か遠くの北見の山
手前側がオホーツク海



釧路川・湿原源流
1988
屈斜路湖から釧路川に入った所、湿原の入り口付近。



1988年の春、シニアスカウト会議で北海道の道東方面への長期移動野営という意見が出た。前年までSSで今春からRSになったF君がまとめ役になって、北海道に行くなら「通の道東」だろうの一言でだれも文句が無い・・・こんな感じで活動エリアが決まったことを覚えている。

北海道はとても広い、一週間歩き続けていても行きたい場所に辿り着けることはできない～満足できる結果になるのかどうか疑問だった・・・それで自転車とカヌーを使うという方法になった。



自転車ならば、日頃乗っているから、特別なことではない。あまり金額が張ることは避けたい。こんな考え方でしたから、本格的なサイクリング車とかロードレーサー、マウンテンバイクを用意しなくてもいいんじゃないか・・・普段使っている自転車を持ち込んで行こうということで実行した。そんなこんなで、写真を見てもわかるように、北海道の地元の兄ちゃんが近所で遊んでいるような光景となってしまった。

カヌーは、前年秋から3回ほどトレーニングしてあったので、シニアスカウト達は、激流以外ならまあ何とか漕げるレベルであった。釧路川と屈斜路湖は静かで清流、神秘的な魅力の川と源流という情報があったので、スカウトたちでも大丈夫だ～と考えていた。

道東ならば、釧路湿原を外す訳にはイカンナア～タンチョウ鶴もいるし野生の馬もいそうだし・・・という意見があり釧路あたりをベースにして計画の可能性を探った。そうになると、もう交通手段はフェリーしかなくなり、ルートは東京か仙台経由で苫小牧か釧路の港を目指す・・・
釧路ならば和商市場の花咲蟹が有名だから、絶対に腹いっぱい蟹食おう・・・が合言葉だった。だから、到着後直ぐに市場まで自転車で走った。

ワンボックス車にカヌーと装備を積み込み、自転車漕いで釧路港をスタート。点々と野営しながら最北網走のオホーツク海を目指す。最果ての網走番外地：網走刑務所がゴールというスカウト達たちの計画だった。
知床岬は進入が難しいので断念・・・左下の写真が網走原野の海岸とオホーツク海。





とにかく、花咲蟹はたくさん食べた。

全く誰もいないので、どこで調理しようが、どこにテントを張ろうが問題はない・・・ただし水の入手が難しいので、必ず早めに確保した。

右上の写真は、夜明け前に起きて、オホーツク海で釣り上げた「本物の鮭：地元ではアキアジと呼んでいた」
釣り上げたのはオスだったので、腹には白子が入っていた。夏場に鮭が接岸・遡上するらしい。



原野での野営は木陰がないので、昼間は暑い・・・しかし、北海道の朝と夜は涼しい、というよりは8月でも寒い感じがした。

しかし、蚊がもの凄く多く、人の周りは蚊で覆われてしまう。とてもツライが夕方のみ・・・キタキツネは多く、傍まで寄ってくる。

車は絶対に原野の中に踏み込んではいけない。嵌まってしまって脱出できない可能性が高いからだ。ですから、常に路端に置く。

一回嵌まってしまい、助けてくれる地元の人が通るまで2時間ほど待ったこともあった。

自転車ばかりでは飽きてしまうので、「屈斜路湖から霧の摩周湖を」目指して廃線となった鉄道敷を歩く。



屈斜路湖の湖畔にて3泊する。夕日が美しい。

屈斜路湖の北端にベースキャンプを張り、カヌーで樹林帯の中の水源地まで遡上・・・途中、エゾ鹿の群れと遭遇。水源付近は酸性がとても強いので魚は極少ないというかない。

夜中に物音がするので起きて構える。熊が来訪したのかが不安だから・・・そっと起きて様子を探ると、エゾ鹿が50頭くらい湖に水を飲みに来た音だったので安心。何しろ熊の縄張り内でテントを張っているのしかたがない。

だから、食料類は全て車の中に格納し、残飯はきれいに処理、絶対に埋めないで袋に入れて車にしまった～残り物食料で寄せ付けないように配慮。しかし、スイカは外に出しっぱなしにしてしまい後悔。

湖脇をスコップで掘ると温泉が出る。温泉に浸かりながらボーっとする時間も楽しかった。

計画ではカヌーで屈斜路湖を北から南に縦断し、南端から釧路川・湿原に突入、弟子屈あたりまで釧路川源流域を下る。屈斜路湖は釧路川・湿原の水源地。



屈斜路湖は広かった。縦断するのに、半日かかってしまった。

とにかく、漕ぎ続けた。ひたすら漕いだ。漕いだ・・・疲れた。

夜明けにスタートしたので、昼飯食って釧路川源流に侵入。ダムがないので簡単に川に進むことができる。



釧路川をリバーツーリング・・・朽ち果てた原木がいたるところにある。
水鳥もいた。雰囲気はとてもGOOD。
神秘的な雰囲気の湿原とは、こんな風景なのかと感嘆する。

地形に高低差が少ないので、急流・激流は全く無く快適なリバーツーリングをすることができた。

シニアスカウトの即席カヌーイストでも安心できた。

本州の川は山から海が比較的近いので、源流に近いほど急流・・・北海道は海まで広い原野が続くため、緩やかに蛇行して行くのんびりとした川の相だった。

上流は酸性がまだ強いのか、朽ちた木が酸化させてボロボロになり泥状というかヘドロ状になって川岸に堆積している。

接岸し上陸しようと足を踏み出すと、底なし沼のように膝上・太腿付近までズブズブと埋まる。泥沼の中に入ってしまった感じ。

なるほど、湿原が生まれるはず、広がっていったはずだ～ということが十分理解できた。

上陸地点の選択が難しかった。

夕暮れ前に接岸上陸・・・暗闇の釧路湿原を漕ぎ下る度胸はない。

水の透明度は高い。

当たり前のことだが、幻の魚：イトウは確認できず。

タンチョウ鶴とか野生の馬も現われてはくれなかった。残念なこと・・・



1週間は長かったが、とても楽しく貴重な経験ばかりが多かった移動野営だった。

自転車とカヌーと徒歩、これらを全部含んだ欲張りな計画だったが、どれもこれも深く印象に残っている。

しかし、一番爽快だったのは、屈斜路湖の山上にある「美幌峠から網走市まで」が一気に下りだったこと・・・何もせずに自転車に乗ったまま一直線に山頂から市街地までトップスピードで到着したことだった。

風を切ってオホーツク海に向かう～ 視界が開けた峠の道から遥か遠くのオホーツク海を見た。